

産婦人科学・精神医学		講義	教授 加藤 政彦 教授 千明 政好
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門分野科目	科目ナンバリング	13361202

1. 授業のねらい・概要

本授業は、女性特有の疾患に関する、不正出血および妊娠に関する病態生理の体系的な理解と知識の習得および、臨床現場での適切な対応が行える知識を修得する。また、精神疾患の公衆衛生、臨床および社会資源などについても理解を深める。

2. 授業の進め方

テキストの範囲の内容を、適宜、スライドと配布資料を用いて授業する。授業の最後に最近の国家試験問題等を出題し解答を出席カードに記載して提出させる。テキストの内容に沿った講義形式を基本とするが、随時、新聞・雑誌の記事などから具体的な出来事を取り上げて診療の現場に即した説明も行う。

3. 授業計画

1. 妊娠・分娩救急疾患①（正常妊娠） 「正常妊娠」についての理解を深める。 2. 妊娠・分娩救急疾患②（正常分娩） 「正常分娩」についての理解を深める。 3. 妊娠・分娩救急疾患③（異常妊娠） 「異常妊娠」を知るために、正常妊娠との病態的な違いを比較しながら理解を深める。 4. 妊娠・分娩救急疾患④（異常分娩） 「異常分娩とは何か？」を知るために、正常分娩との病態的な違いを比較しながら理解を深める。さらに、「分娩時の異常」についても学ぶ。 5. 妊娠・分娩救急疾患⑤（産科救急） 妊婦・産褥期の救急疾患と妊婦搬送時の注意とその介助についての理解を深める。 6. 妊娠・分娩救急疾患⑥（外傷・心肺蘇生） 妊婦外傷の初期診療と心配蘇生法について学習する。 7. 周産期・新生児医療 周産期医療と新生児の生理、蘇生法などについて理解する。 8. 診断学（精神科診断） 臨床現場でどのように精神疾患患者を診断しているかの理解を深める。	9. 処置論（精神科における処置と治療） 臨床現場でどのように精神疾患患者に処置と治療が行われているかの理解を深める。 10. 疾病学（統合失調症） 統合失調症の病態、症状、観察、対応、重症度・緊急度判断、病院選定についての理解を深める。 11. 疾病学（気分障害） 気分障害の病態、症状、観察、対応、重症度・緊急度判断、病院選定についての理解を深める。 12. 疾病学（神経症性障害・睡眠障害） 神経症性障害・睡眠障害の病態、症状、観察、対応、重症度・緊急度判断、病院選定についての理解を深める。 13. 疾病学（器質性精神障害） 器質性精神障害の病態、症状、観察、対応、重症度・緊急度判断、病院選定についての理解を深める。 14. 疾病学（児童思春期の精神障害） 統合失調症の病態、症状、観察、重症度・緊急度判断、病院選定についての理解を深める。 15. 確認試験 第8回～第14回までのまとめ試験を行う。
--	--

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容を、テキストと配布資料を使って復習しておく。さらに、授業の最後に出された問題を復習しておく。この問題は次回の授業の初めに解答を解説する。なお、これらの準備学習には90分以上が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回、過去に実施された国家試験の問題を実践解答させる。問題解答の際、また定期試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を試験終了直後に説明する。

授業における学修の到達目標

- 1) 女性特有の疾患に関与する不正出血および妊娠に関する病態生理の体系的な理解と知識の習得を目的とする。
- 2) 臨床現場で、適切な対応が行える知識の習得を目的とする。
- 3) 精神疾患の公衆衛生、臨床、社会資源などについて理解し、修得を目的とする。

7. 成績評価の方法・基準

平常点（30%）、定期試験（70%）を総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

テキスト：Advanced Life Support Group（著）、新井隆成（翻訳）、病院前救護のための産科救急トレーニング，中外医学社，2014 年

細野茂春監修，NCPR 新生児蘇生法テキスト第 4 版，メジカルビュー社，2021 年

参考文献：小関一英編，2023 年版救急救命士国家試験対策出題分野別国試験問題・解説集，晴れ書房，2022 年
適宜指定する教材

テキストは毎回の授業に必ず持参すること。また、参考文献は適宜紹介する。

9. 受講上の留意事項

携帯電話の使用，飲食，帽子の着用は禁止とする。

欠席回数が全講義回数の 3 分の 1（6 回）以上となった場合には受験資格を失う。

遅刻，欠席ならびに授業中の私語，許可の無い教室の出入り，授業に関係ない言動は慎むこと。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。医療機関における医師としての実務経験を活かして講義を行う。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。